JIHS
国立健康危機管理研究機構

NCGM
National Center for Global Health and Medicine

国立健康危機管理研究機構

JIHS

国立国際医療センター

2026年度
臨床研修／募集案内

2025年４月、国立感染症研究所と国立国際医療研究センターが統合し、国立健康危機管理研究機構（JIHS）が発足しました。

ご挨拶

医師としての基本を身につけ
将来の目標を見つけよう

国立健康危機管理研究機構・国立国際医療センターは臨床研修医として当センターで研鑽を積まれる皆さんを心より歓迎します。私共は令和7年4月1日に国立国際医療研究センターと国立感染症研究所が統合して新組織、国立健康危機管理研究機構（JIHS）となり、国立国際医療センターはその中核病院として再出発しました。

医師としての第一歩を踏み出す臨床研修が重要であることは言うまでもありませんが、幸いなことに当センターには、臨床能力の高い指導医クラスの医師が多数活躍しており、全員が教育・人材育成に情熱を持って取り組んでいます。当センターの臨床研修では、医師として必要な基本技術や患者さんとのコミュニケーションの手法を習得できるのみならず、診断・治療における論理的考え方や全人的医療とは何かということを体感・学習できると確信しています。

また、当院には国際医療協力局も設置されており、海外での活躍を希望する若手医師に最適なキャリアパスも提供しています。新組織 JIHS のミッションは「感染症をはじめとする健康危機に対して安心できる社会を実現する」ことですが、当センターは感染症だけでなく全ての病態に対応できる総合病院としての機能をさらに強化することを目指しています。当センターで臨床研修を修了され、医師として今後に飛躍するためのしっかりとした土台を作って下さい。

理事長 **國土 典宏**

充実した臨床研修を
国立国際医療センターで

当院は総合的医療を基盤とする高度急性期病院です。国際感染症対応、糖尿病診療、エイズ治療、救急医療等に特色があり、全ての診療分野で専門医が連携を取り合う診療体制が整った総合病院です。合併症のある患者さんの外科手術、複雑な内科疾患の診療、原因不明な疾患等に対処する総合診療も当院の特長であり、様々な症例を経験することが出来ます。さらに、研究的志向を持った臨床医を目指す方や国際医療協力、医療行政等に関心のある方にも相応しい病院です。当院で臨床研修を行うことにより、医師として必要不可欠な幅広い基礎や人間的な素養を身に付けることが出来ますので、志の高い皆さんを心より歓迎致します。

院長 **宮嵜 英世**

医師としての第一歩を踏み出す皆さんへ

医師となり最初の2年間に行う臨床研修はとても大切です。この2年間の経験が、その後皆さんが社会に貢献する医師として活躍するための礎となります。

国立健康危機管理研究機構は、ナショナルセンターと並ぶ国立高度専門医療研究センターの中で唯一、総合病院を持ち臨床研修医を受け入れている施設です。

明治時代の東京陸軍病院、第二次世界大戦後の国立東京第一病院などを経て発展を続けてきた長い伝統を有する国立の総合病院ですが、同時に、我が国の代表的な卒後研修施設であり、全国に先駆けてローテーション研修を導入し、全国から数多くの若手医師を受け入れてきました。

平成16年に必修化された新医師臨床研修制度の導入後も、特徴ある6つの臨床研修プログラムを開発、調整するなど進化し続けてきました。

全国有数の多くの救急車を受け入れている救命救急センターや総合診療科における豊富な未診断common diseaseを有する患者さんの診療経験により、医師としての基礎体力を培ってもらいます。

また各科の研修では、多様な入院患者さんの診療に携わってもらいます。外来、入院ともに熱心な指導医たちが皆さんを指導します。診療科間の垣根が低く、研修の大半をセンター病院のみで完結できることも当院の特徴です。

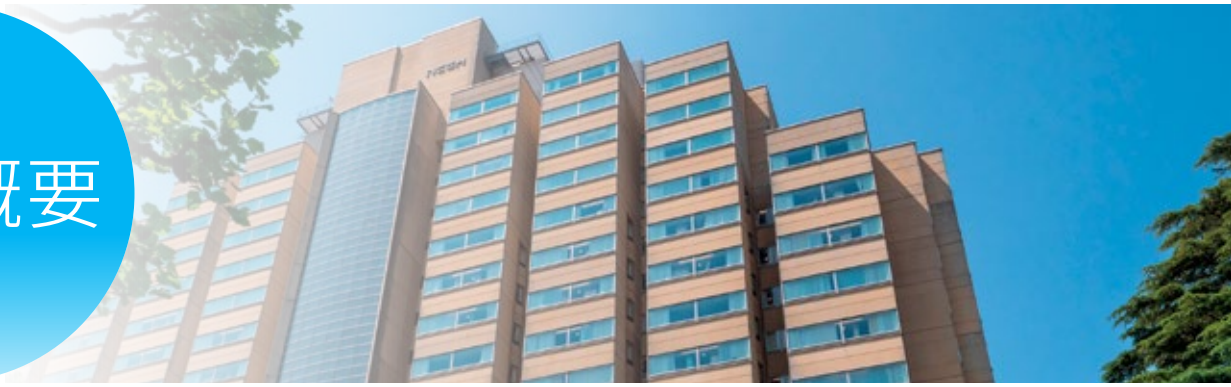
他院にない特徴として、日本の国際保健医療のメッカである国際医療協力局、感染症危機管理など高水準の感染症臨床を誇る国際感染症センター、症例集積的研究を行う臨床研究センター、先端的な基礎研究を行う研究所など、組織としても多様性と多彩なキャリアパスの選択肢を備えています。臨床研修を終えたのちも多岐に亘る分野において活躍の機会を提供いたします。

将来の医療を担う責任感とリーダーシップのある医師になっていただきたいですが、そのためにまずは小さな目標とその達成をコツコツと積み重ねることが大切です。臨床研修プログラム責任者、医療教育部門スタッフを中心として全指導医を挙げて皆さんの実践や学び、成長を支援します。当院で臨床研修を行っていただけることを心よりお待ちしてます。

副院長（教育担当）・医療教育部門長　放生 雅章

副医療教育部門長（臨床研修担当）　稲垣 剛志

研修概要



研修の特徴

1. 市中病院と大学病院の良さを兼ね備えたプログラム

市中の大規模急性期総合病院でありながら、臨床研究センターや研究所などの研究機能を有する、大学病院並の高度先進医療を行う特定機能病院でもあり、市中病院と大学病院の2つの性格を併せ持っています。

2. 豊富な未診断症例と充実した指導体制

年間救急搬入数は11,000件を超え、未診断のcommon disease症例から希少疾患まで、質・量共に豊富な症例に恵まれています。また、臨床能力に優れた指導医を中心に、手厚い「屋根瓦方式」の指導体制をとっており、常勤医の70％以上は厚生労働省の臨床研修指導医資格を有しています。

3. 病院の医師・メディカルスタッフ全員で研修医を育てる姿勢

将来の医療を担う責任感とリーダーシップのある医師になっていただくよう、2年間を通じて医師のみではなく看護師らメディカルスタッフを含む全ての医療従事者が応援いたします。

4. 研修医同士の強い絆

全国各地から集まった研修医は2年間、病院敷地内の教育研修棟で生活を共にしつつ、研修の大部分を基幹型病院で行います。このため、研修医同士の絆は強く、教え教えられる環境の中でお互いに切磋琢磨しつつ、確実に臨床能力を向上させることができます。

2年間のローテーションスケジュール

医科では、内科系、外科系、救急科、総合診療科、小児科、産婦人科の6プログラムがあります。各科ローテーションは4～8週単位（1クール）となっています。全プログラム共通のコア・ローテーション（64～66週）と各プログラム固有のローテーション（34～36週：自由選択を含む）に大別されます。※現時点のものであり、今後、一部変更される可能性があります。

64 ～ 66 週	34 ～ 36 週	
各プログラム共通のコア・ローテーション	各プログラム固有のローテーション	自由選択

全プログラム共通コア・ローテーション：64～66週

※令和4年度実績

コア・ローテーションでは消化器内科、呼吸器内科、循環器内科を各6週間、腹部・一般外科を8週間、救急科を12週間、麻酔科を6～8週、小児科、産婦人科、総合診療科、精神科、地域医療を各4週間、合計で64～66週間研修します。この期間だけで厚労省の定める「臨床研修の到達目標」の大部分が達成できます。

6 週	6 週	6 週	8 週	12 週	6 ～ 8 週
消化器内科	呼吸器内科	循環器内科	腹部・一般外科	救急科	麻酔科
4 週	4 週	4 週	4 週	4 週	
小児科	産婦人科	総合診療科	精神科	地域医療	

内科系
プログラム

JUNIOR RESIDENCY PROGRAMS

募集定員 12名

内科医として必要不可欠な「内科力」修得を目的とするプログラム

将来内科系領域で診療に従事する上で「内科力」の習得を目的に、内科系診療科を中心にローテーションする研修プログラムです。ローテーション期間は4週間を1単位とし、コアローテーション（内科必修18週・救急科12週・外科8週・麻酔科6週・小児科・産婦人科・総合診療科・地域医療・精神科各4週）を基礎に行われます。採用試験の申込時に①内科重点コースまたは②診療科重点コースの選択ができます。

①内科系プログラム内科重点コースでは、コアローテーションである内科3科（消化器内科、循環器内科、呼吸器内科・各6週）に加え、残り28週は内科7科（神経内科、糖尿病内分泌代謝内科、膠原病科、血液内科、腎臓内科、総合感染症科、ACC）を各4週ずつローテーションすることで、内科の基本を幅広く、かつある程度深く研修することができます。また自由選択枠として8週は全ての診療科から選択可能です。

②内科系プログラム診療科重点コースでは、皮膚科、リハビリテーション科を目指す研修医のためのコースです。コアローテーションに加えて特定診療科（皮膚科、リハビリテーション科から選択）の研修を24週間通して行うため、これら領域での専門医資格取得を目指して適切なスタートを切ることができます。

プログラム責任者　片桐 大輔
副プログラム責任者　井花 庸子
副プログラム責任者　岡﨑 徹
副プログラム責任者　石田 あかね
副プログラム責任者　島津 浩

ローテーション例

コア科目　プログラム科目

内科重点コース

	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	8週
	内科 1	内科 2	内科 3	内科 4	内科 5	内科 6	内科 7	自由選択

内科1～7：腎臓内科、血液内科、糖尿病内分泌代謝科、膠原病科、神経内科、総合感染症科、ACCの7診療科全てを4週ずつ研修する。
コアローテーションに含まれている循環器内科、消化器内科、呼吸器内科は内科1～7には含まれない。
自由選択では乳腺・腫瘍内科（がん総合診療センター）や2度目の内科系診療科のローテーションを選択することが可能である。

1年次	1週	6週	6週	4週	4週	4週	4週	6週
	オリエンテーション	消化器内科	循環器内科	腎臓内科	救急科	救急科	総合感染症科	麻酔科
	4週	4週	4週	4週				
	血液内科	総合診療科	小児科	自由選択				
2年次	4週	4週	4週	4週	4週	4週	4週	6週
	神経内科	精神科	膠原病科	地域医療	腹部・一般外科	腹部・一般外科	糖尿病内分泌代謝科	呼吸器内科
	4週	4週	4週	4週				
	救急科	産婦人科	自由選択	ACC				

外科系 プログラム

JUNIOR RESIDENCY PROGRAMS

募集定員 7名

外科系領域で必要不可欠な基本的臨床能力をフレキシブルに修得できるプログラム

外科領域における総合性と専門性の両立を目指し、多様な研修ニーズへの対応を目指す本プログラムは、将来外科系領域で診療に従事する上で必要不可欠な基本的臨床能力の修得を目的としています。コアローテーション（内科必修18週、救急科12週、外科8週、麻酔科8週、小児科、産婦人科、精神科、総合診療科、地域医療各4週）に加え、内科必修選択（6週）および神経選択（4週）それぞれ1クールが必須であり、残りの16週間（4週×4クール）を各コースに則り、ローテーションをします。外科系プログラム自由選択コースでは、外科領域に興味があるが、まだ特定の診療科が決まっていない状態であり、外科系各科をローテーションしつつ内容を知った上で専門研修に繋げたいという研修医には魅力的なコースです。外科系プログラム診療科重点コースでは、すでに外科系の中で特定領域の専門医を目指すことが決まっている研修医は、16週全期間を1つの診療科の研修に充てることや、1つの診療科を中心に周辺領域の研修科目と組み合わせるなど、個人個人の目的に合わせて柔軟に研修ローテーションを組み立てることができます。なお、当プログラムでは、麻酔科や病理科なども外科系選択科目に含まれているのも魅力の1つであり、同じように16週を自由にデザインすることが可能です。

プログラム責任者　三原 史規
副プログラム責任者　井上 雅人
副プログラム責任者　日野原 千速

ローテーション例

コア科目　プログラム科目

自由選択コース

4週	6週	4週	4週	4週	4週	8週
神経選択	内科必修選択	外科選択 1	外科選択 2	外科選択 3	外科選択 4	自由選択

外科選択1～5：腹部・一般外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、麻酔科、病理診断科、救急科、ICUの13診療科から、研修医が自ら4週間ずつ選択してローテーションを組み立てることができる。

1年次	1週 オリエンテーション	6週 消化器内科	4週 整形外科	4週 救急科	4週 救急科	4週 泌尿器科	8週 麻酔科	4週 病理診断科
	4週 総合診療科	4週 小児科	4週 自由選択	4週 神経選択				
2年次	4週 精神科	6週 内科必修選択	4週 地域医療	4週 腹部・一般外科	4週 腹部・一般外科	4週 呼吸器外科	6週 呼吸器内科	4週 救急科
	4週 産婦人科	4週 自由選択	6週 循環器内科					

救急科
プログラム

JUNIOR RESIDENCY PROGRAMS

募集定員 3名

救急科診療ことはじめプログラム
臓器に特化しない総合的な
救急科専門医への基礎習得を目指す

総合救急初期診療と救命救急医療の能力を兼ね備えた救急科専門医となるための基礎を習得するプログラムです。コアローテーションに加えて、救急科の外来診療並びに病棟管理の研修を強化し、救急医療に強く関連する診療科へのローテーションを付加してあるところがこのプログラムの特徴です。様々な重症度の救急患者の高度総合救急医療をめざし、その基礎として上級医に引き継ぐまでの呼吸循環の安定化に必要な能力と命を脅かしかねない疾患の見落としを回避する能力の習得を主たる目標としています。

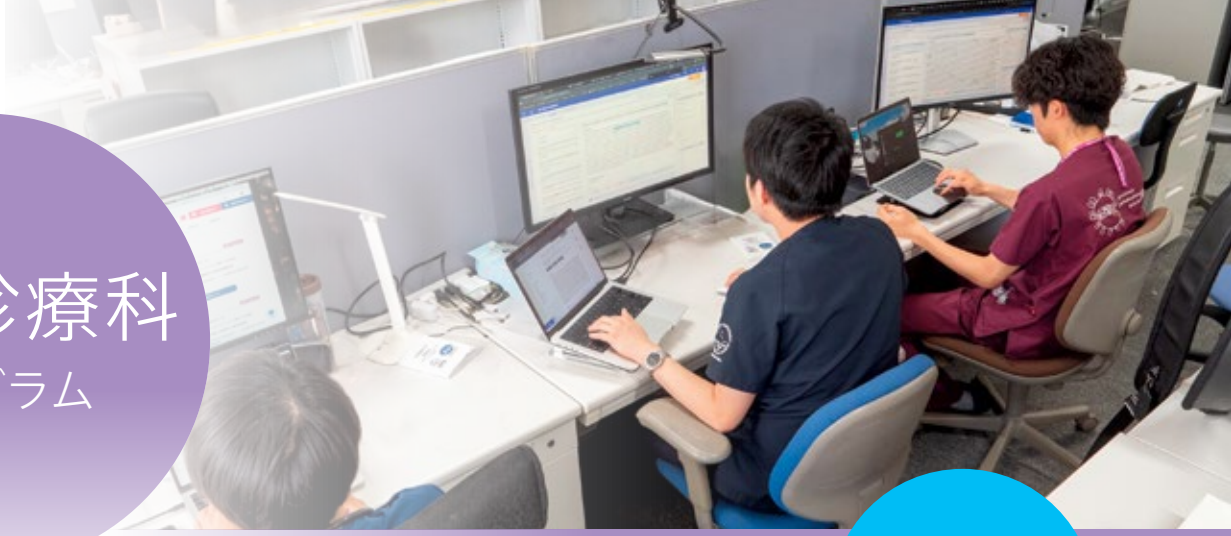
ABCDEアプローチを基にした診療法を積極的にとりいれた教育・指導が実践され、救急科研修期間の20週間で外来での初期診療と病棟での患者管理・集中治療を経験することができます。また合計14週間（自由選択4週x2、および内科必修選択6週）の自由選択枠があるので）より一層幅広い研修を行うことが可能です。Off-the-job trainingについては、二次救命処置（ICLS）のインストラクターになることを目標とします。能力に応じて学会発表、論文作成の機会があり、臨床研修修了後は引き続き専門研修への道が開かれています。

プログラム責任者　小林 憲太郎
副プログラム責任者　船登 有未

ローテーション例

コア科目　プログラム科目

1年次	1週 オリエンテーション	6週 消化器内科	6週 循環器内科	4週 救急科	4週 救急科	6週 麻酔科	4週 総合診療科	4週 小児科
	4週 自由選択	4週 救急科	6週 内科必修選択					
2年次	6週 脳神経外科	4週 精神科	4週 地域医療	4週 腹部・一般外科	4週 腹部・一般外科	6週 呼吸器内科	4週 救急科	4週 産婦人科
	4週 救急科	4週 整形外科	4週 放射線科	4週 自由選択				



総合診療科
プログラム

JUNIOR RESIDENCY PROGRAMS

募集定員 2名

バランスの取れたプライマリケアの力と主治医としての管理能力を養う

2年間で総合診療科（合計16週）と救急科（合計16週）、小児科（6週）等を多く経験していただく他、神経内科研修を含めることで、病歴聴取と身体所見を重視しバランスの取れたプライマリケアの力を養うことに重点を置いています。
1年次と2年次に総合診療科の病棟研修を行いその期間中に外来診療を定期的に組み込みます。病棟では主治医としてのマネジメントと責任感を身につけられるよう支援します。また、自分自身の行った診療を振り返る習慣をつけていただきます。柔軟で忍耐強く、患者さん一人ひとりを大切にできる医療人になっていただきたいと考えています。臨床研修終了後はNCGM等の総合診療専門研修プログラムへ進む場合や他の専門分野を選ぶ場合があり、いずれの進路を選んだ場合でも支援いたします。総合診療科プログラムでは、他科をローテーション中も研修でのつまずきをフォローしたりと、当科スタッフが2年間一貫して本プログラムの研修医を育てて行きます。

プログラム責任者　稲垣 剛志

ローテーション例

コア科目　プログラム科目

1年次	1週 オリエンテーション	8週 総合診療科	4週 精神科	4週 救急科	4週 救急科	6週 循環器内科	6週 呼吸器内科	6週 神経内科
	6週 小児科	6週 麻酔科	4週 自由選択					
2年次	4週 腹部・一般外科	4週 腹部・一般外科	4週 産婦人科	4週 救急科	4週 自由選択	4週 放射線科	4週 地域医療	6週 消化器内科
	4週 総合診療科	4週 救急科	4週 整形外科					

総合診療・地域医療プログラム

NEW!

JUNIOR RESIDENCY PROGRAMS

募集定員 2名

バランスの取れたプライマリケアの力と主治医としての管理能力を養う

長野県での研修を通じて、都心での研修よりさらに視野を広げ地域医療と連携を経験し、医療者として責任感の向上を図る。

国立国際医療センターの総合診療科（合計16週）と救急科（合計16週）、小児科（6週）等を多く経験していただき、病歴聴取と身体所見を重視しバランスの取れたプライマリケアの力を養うことに重点を置いています。1年次に内科、救急科、総合診療科外来、総合診療科病棟等の経験を積んだ後に、長野県のJA長野厚生連長野松代総合病院で6か月の研修に臨みます。松代総合病院では内科6週を必須として合計24週研修をします。この研修では都心での研修よりさらに視野を広げ地域医療と他職種連携を経験し、医療者としての責任感の向上を図ります。

1年次と2年次に総合診療科の病棟研修を行い、その期間中に外来診療を定期的に組み込みます。病棟では主治医としてのマネジメントと責任感を身につけられるよう支援します。また、自分自身の行った診療を振り返る習慣をつけていただきます。柔軟で忍耐強く、患者さん一人ひとりを大切にできる医療人になっていただきたいと考えています。

臨床研修終了後は国立国際医療センター等の総合診療専門研修プログラムへ進む場合や他の専門分野を選ぶ場合があり、いずれの進路を選んだ場合でも支援いたします。総合診療・地域医療プログラムでは、他科をローテーション中も研修でのつまずきをフォローし、当科スタッフが2年間一貫して本プログラムの研修医を育てて行きます。

プログラム責任者　稲垣 剛志

研修科目

■ コア科目

国立国際医療センター病院

18週	16週	4週	4週	12週
内科（消化器、呼吸器、循環器、神経の内から3科目）	救急科	外科	総合診療科外来	総合診療科病棟

4週	6週	4週	4週	4週
精神科	小児科	産婦人科	放射線科	自由選択

※外科、救急科の8週、精神科、産婦人科、放射線科は主として2年次に研修する

JA長野厚生連長野松代総合病院

2年次 6月～11月の合計24週

内科（呼吸器内科、消化器内科、神経内科、総合診療科から選択）6週以上	外科・整形外科・形成外科・皮膚科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・放射線科・（麻酔科、地域医療については要相談）各2～4週から選択

※選択は病院側との相談が必要となります。

小児科
プログラム

JUNIOR RESIDENCY PROGRAMS

募集定員 2名

小児科医に必要とされる「総合的臨床能力」の獲得を目的とした研修プログラム

小児科医師としての「総合的臨床能力」を身につけると同時に、専門性確立を目指すプログラムです。周産期医療を含む小児科全領域の基本診療を中心に、他の診療部門や職種との協力体制を通し、医師としての基本を身につけることができます。小児科一般病棟における急性疾患を中心に、指導医と重症疾患の診療も行います。新生児診療では、正常新生児と低リスク未熟児を中心に、重症児の診療も行うことができます。高度先進医療の一翼を担う未熟児医療や造血幹細胞移植にチーム医療の一員として参加し、上級医·指導医を交えた討論や症例検討を通してきめ細かな指導を受け、同僚や上級医との交流を通し自分の将来像を見据えることができます。小児科は、成人内科のような細分化された疾患概念がありながら、常に総合的な診療を求められます。患児の身体的、精神的な側面に配慮したトータルケア能力、家族や養育環境などの社会的要素も考慮した診療能力の獲得を目標としています。

プログラム責任者　瓜生 英子

ローテーション例

コア科目　プログラム科目

1年次	1週 オリエンテーション	4週 小児科	4週 小児科	6週 循環器内科	4週 救急科	4週 救急科	4週 小児科	4週 総合診療科
	6週 麻酔科	6週 消化器内科	4週 自由選択					
2年次	6週 呼吸器内科	4週 小児科	4週 地域医療	4週 腹部・一般外科	4週 腹部・一般外科	4週 内科必修選択	4週 内科必修選択	4週 小児科
	4週 産婦人科	4週 精神科	4週 救急科	4週 小児科	4週 自由選択			

産婦人科
プログラム

JUNIOR RESIDENCY PROGRAMS

募集定員 2名

産婦人科医としての基本の習得を重点に、計34週間の産婦人科研修を行うプログラム

レジデントまたはフェローが常時マンツーマンで指導の下、基本的な産婦人科診察法を身につけます。婦人科入院患者に対しては上級医とともにチームを作り、受持医の一員として患者の診療にあたり、婦人科腫瘍学、生殖医学、周産期学の基本的な疾患に対する診断・治療について学んでいきます。開腹手術や腹腔鏡下手術の第2助手として必要な技術（糸結び、鈎引き）を習得し、手術術式、骨盤解剖などに習熟します。産科では、正常妊婦の分娩管理を習得する他、合併症妊娠・異常分娩などの診断治療についても学ぶことができます。産婦人科ローテーション中は、月5〜6回の産婦人科副当直を勤めることにより、産婦人科救急疾患の診断治療に習熟します。研修修了時には、子宮内容除去術やバルトリン腺嚢腫などの小手術、開腹による良性附属器腫瘍などの執刀者となるほか、正常分娩に立ち会い、会陰切開・裂傷縫合を行えるようになります。また、自験例の症例報告や臨床統計に関する学会発表を行うことも可能です。

プログラム責任者　大石 元

ローテーション例

コア科目　プログラム科目

1年次	1週 オリエンテーション	4週 総合診療科	4週 産婦人科	4週 救急科	4週 救急科	8週 麻酔科	4週 産婦人科	4週 産婦人科
	6週 呼吸器内科	4週 小児科	4週 自由選択	4週 精神科				
2年次	6週 循環器内科	6週 消化器内科	4週 救急科	4週 産婦人科	4週 自由選択	4週 産婦人科	4週 腹部・一般外科	4週 腹部・一般外科
	4週 地域医療	6週 内科必修選択	4週 産婦人科					

歯科
プログラム

JUNIOR RESIDENCY PROGRAMS

募集定員 2名

歯科医師として将来必要な実戦的な診療能力や応用力を身につけるためのベースラインの習得を目標とします

当科は外傷、炎症、嚢胞、顎変形症、顎関節症、腫瘍や、HIVなど様々な感染症を持つ患者が多数紹介受診するという特徴があります。一方、総合臨床病院の歯科として、多彩な基礎疾患を有する患者の歯科・口腔外科治療（歯科インプラント含む）にとどまらず、救急病棟やICUなどに入院中の患者への口腔管理やNSTやRST、緩和ケアチームへの参加など多岐にわたって院内各科と密接に連携し診療を行っています。また、顎変形症患者の手術前後のレーザー三次元顔面形態分析や顎口腔領域に発生する血管奇形（血管腫）へのレーザー治療などわが国をリードする高度医療をはじめとし、MRONJや歯科分野での感染対策に関する研究、抗血栓療法や増血器腫瘍などと口腔領域との関係についての臨床研究、新規医療機器の開発などの医工連携事業も積極的に推進しており、単なる受け身の歯科医師ではなく、全身を視野に入れた顎口腔領域の専門医としての基本姿勢を学ぶと共に、将来必要となる実戦的な診療能力や応用力を身につけるためのベースラインの習得を目指しています。常識にとらわれることなく、自分で真理を追求し判断する「考える歯科医師」を養成するためには様々なものを見聞きし、経験し、知的好奇心を維持・発展させることが大事です。そのため、定期的に抄読会や症例検討会、勉強会を行っており、研修の一環として学会や勉強会への参加及び発表も積極的に推進しています。

プログラム責任者　田山 道太
副プログラム責任者　丸岡 豊
副プログラム責任者　島田 泰如
副プログラム責任者　高鍋 雄亮

第1年次

指導医と共に、外来診療、病棟診療、手術に参加し、歯科口腔外科診療における基本的知識と技術とともに、総合病院の中での「顎口腔領域の専門医」としての立場を理解し、そのベースラインを修得する。与えられるのを待つのではなく自発的に勉強を進める姿勢を確立する。

- **外来**　初診患者の診断法（診療録の作成、病歴聴取、現症記載、口腔顎顔面写真撮影、X線写真撮影、バイタルサインの見分け方、各種臨床検査法、診断及び治療計画の立案、インフォームド・コンセントなど）、治療（基本的な保存修復治療、歯周治療、歯内治療、補綴治療、口腔外科治療など）
- **病棟**　入院患者の術前評価（病歴聴取、現症記載、各種術前検査の意義・解釈・実施、手術術式の検討）入院患者の全身管理（静脈注射・点滴・導尿などの各種基本手技、術後創傷処置法、薬物療法、術後全身管理法など）救急病棟やICUなどに入院中の患者、周術期の患者への口腔管理や栄養サポートチームや呼吸ケアチームへの参加を積極的に行い、口腔管理の経験を積む。
- **手術室**　手洗い法、ガウンテクニック、感染予防の知識手技、手術見学、手術介助、全身麻酔法の見学など

第2年次

第1年次の研修を踏まえて、配当患者を診療し、臨床研修を行う。

- **外来**　保存系、補綴系、口腔外科系治療の基本的な技術の習得をめざす。また入退院支援センターから依頼された周術期等の口腔内チェックの業務にも積極的に関わる。
- **病棟**　院患者の担当医など歯科口腔外科チーム医療の一員として治療に参加するとともに、入院中や周術期の患者の口腔管理の計画を立て、それを実践する。
- **手術室**　手術に参加する機会を積極的に与え、簡単な手術には術者として参加する。
- **他科研修**　麻酔科、救命救急センターの協力のもと、それぞれ長期の研修を行う。
- **院外研修**　国府台病院の歯科と浜崎歯科クリニックにて研修を行う。浜崎歯科クリニックでは、訪問歯科診療や一般歯科医院での歯科診療などについて経験する。

研修歯科医評価

設定された到達目標に対する達成度を研修医の自己評価および複数の指導医による客観的評価、さらに研修修了発表や口頭試問、レポート提出などを総合的に評価し、認定する。

研修医 VOICE

多様な症例に接し、
多様なキャリアを模索する

外科系プログラム　2年次　三好 真衣佳 先生

志高き仲間とともに築く
医師としての礎

救急科プログラム　2年次　松本 浩武 先生

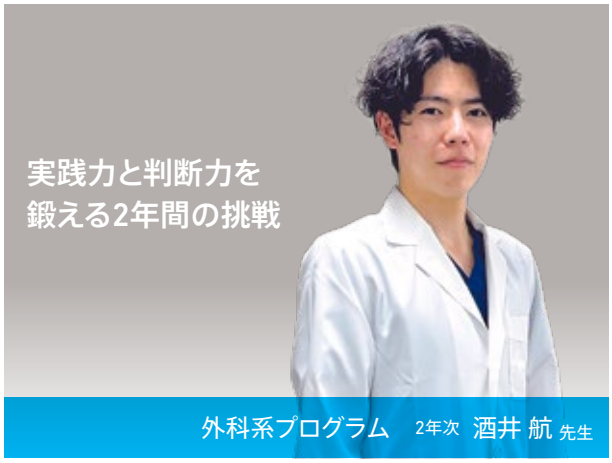
熱意と
多彩な経験にあふれる
仲間と共に高め合い
未来へ羽ばたく場所

内科系プログラム　2年次　中野 賢治 先生

こどもと向き合い、
医療と向き合う2年間

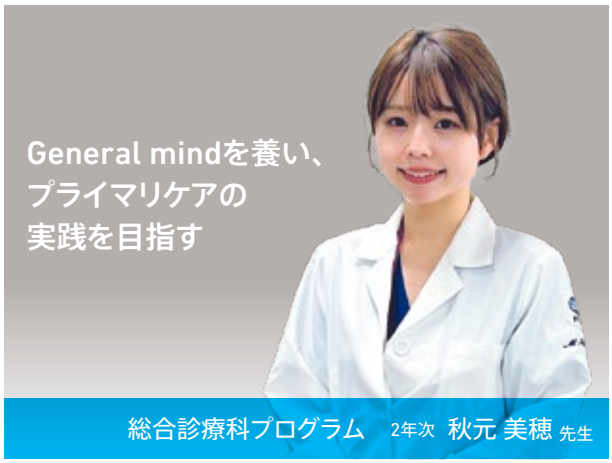
小児科プログラム　2年次　道園 菜々子 先生

内科系プログラム　2年次　青木 裕之 先生



外科系プログラム　2年次　酒井 航 先生

産婦人科プログラム　2年次　三武 さわ 先生

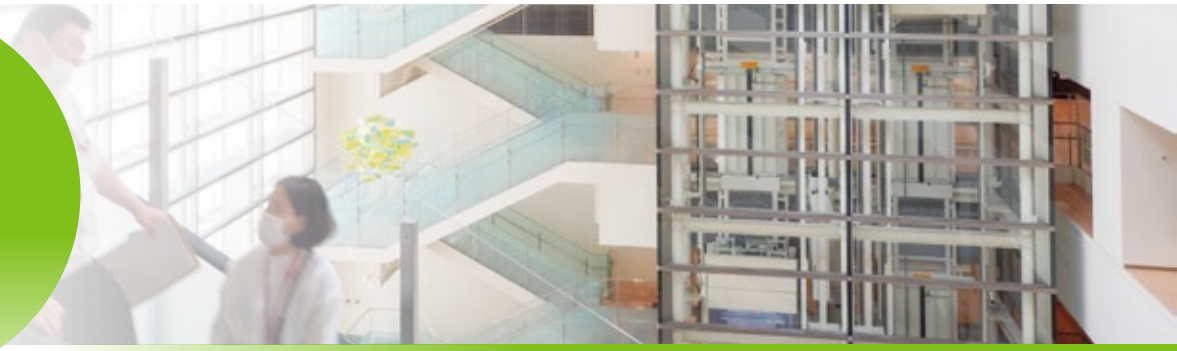


総合診療科プログラム　2年次　秋元 美穂 先生

歯科プログラム　2年次　川島 カレン 先生

歯科プログラム　2年次　落合 研吉 先生

キャリア



CAREER PATH

専門研修（後期研修）とその先を見据えたキャリアパスを形成する

臨床研修修了後の進路

2年間の臨床研修修了後に、引き続き当院の専門研修に進級する者は毎年平均40～50％です。他には、大学病院や他の市中病院の専門研修に進む者、研究者の道に進む者、厚労省医系技官などの行政に就職する者、USMLEを受験して米国に臨床留学する者など、進路は様々です。当院では、研修医1人1人のキャリアプランに応じて、各診療科の指導医や医療教育部門スタッフに気軽に相談できる体制をとっています。

当センターにおけるキャリアパス

● センターでのキャリアパス

臨床研修2年修了後、新専門医制度の基本領域専門研修期間にほぼ一致する3年間のレジデントコースを設置しています。レジデントは全国公募となるため、当院の研修医は外部受験者と共に選抜試験を受ける必要があります。レジデント課程修了後、選抜試験を受けてフェローに進級します。

● NCGM 内でのセンター以外のキャリアパス

NCGMでは、センター以外にも、千葉県市川市にある国立国府台医療センター、臨床研究センター、国際医療協力局、研究所など、様々な施設があり、一般及び専門臨床、臨床研究、医療者の人材育成、国際保健医療協力など、本人の希望により、様々なキャリアパスを選択することが可能です。

● センター病院医師の在籍状況とキャリアパス（2025 年 4 月現在）

臨床研修医	レジデント	フェロー	スタッフ医師	医長	部長以上
2 年間 65 名	3 年間 88 名	3 年間 64 名	118 名	85 名	10 名
卒後	2年	5年	8年	15～20年	25～35年

専門研修（後期研修）

専門研修（後期研修）の特色

● 手厚い指導体制で専門臨床能力を培います

学会認定専門医および指導医クラスの医師がマンツーマンで手厚い指導を行います。全国から集う150名を超えるレジデント及びフェローと切磋琢磨される環境下で、効果的に専門臨床能力を身につけることができます。

● 専門医資格の取得を保障します

基本領域専門医はもちろん、サブスペシャリティ領域専門医の資格取得に関しても、ナショナルセンター、大学病院、国立病院機構（NHO）、他の市中病院などと密接に連携し、十分な症例、手技、手術数を確保し、資格の確実な取得を保障します。

● 博士号取得をバックアップします

当センターは、東京大学、慶応大学、順天堂大学、筑波大学など、首都圏主要大学の臨床系ならびに社会人大学院と連携協定を結び、専門研修を継続しつつ臨床研究を行い、論文を作成して学位を取得することが可能な体制をとっています。

詳しくは医療教育部門の専門研修ホームページをご参照ください。

当院は以下の学会または領域における教育認定施設となっております（全85分野）

日本専門医機構　基本領域

プログラム基幹施設

- 内科
- 外科
- 救急科
- 総合診療科
- 小児科
- 産婦人科
- 脳神経外科
- 麻酔科
- 耳鼻咽喉科
- 皮膚科
- 病理診断科

プログラム連携施設

- 精神科
- 整形外科
- 眼科
- 泌尿器科
- リハビリテーション科
- 放射線科

サブスペシャルティ、その他の学会や領域

内科系

- 日本アレルギー学会認定教育施設
- 日本リウマチ学会教育認定施設
- 日本感染症学会認定研修施設
- 日本血液学会認定研修施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本心血管インターベンション学会認定研修施設
- 日本神経学会教育認定施設
- 日本腎臓学会認定研修施設
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本透析医学会認定施設
- 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
- 骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄採取・移植認定施設
- 日本高血圧学会
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本臨床神経生理学会教育施設
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本膵臓学会指導施設
- 日本心身医学会研修診療施設
- 日本急性血液浄化学会認定施設
- 日本アフェレシス学会認定施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設

外科系

- 日本外科学会認定医制度認定修練施設
- 日本気管食道科学会認定専門医研修制度
- 日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- 日本消化器外科学会認定専門医修練施設
- 日本大腸肛門病学会専門医研修施設
- 日本乳癌学会認定医・専門医制度認定研修施設
- マンモグラフィ検診施設画像認定施設
- 三学会構成心臓血管外科専門医認定基幹施設
- ステントグラフト実施施設
- 外科周術期感染管理教育施設
- 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度による修練施設 B
- 日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設
- 日本形成外科学会認定施設
- 日本脳神経血管内治療学会認定研修施設
- 日本脳神経外傷学会認定研修施設

内科系、外科系以外

- 日本集中治療医学会認定専門医研修施設
- 日本外傷学会認定外傷専門医研修施設
- 家庭医療専門研修プログラム基幹施設
- 日本病院総合診療医学会認定施設
- 病院総合診療専門研修プログラム連携施設
- 日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導指定施設
- 東京都医師会母体保護法指定医師研修指定医療機関
- 日本周産期・新生児医学会認定施設
- 日本小児血液・がん学会専門医研修施設
- 生殖医療専門医制度認定研修施設
- 婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- 日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
- 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- 日本脳卒中学会専門医研修教育病院
- 日本総合病院精神医学会専門医研修施設
- 日本核医学会認定専門医教育病院
- 日本放射線腫瘍学会認定施設
- 日本 IVR 学会専門医修練施設
- 日本ペインクリニック学会認定医資格指定研修施設
- 日本口腔外科学会専門医制度指定研修機関
- 日本病院会指定優良一泊人間ドック施設
- 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働認定施設
- 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設認定
- 日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設
- 日本超音波医学会認定超音波専門医研修指定施設
- 日本臨床細胞学会認定施設
- 臨床遺伝専門医制度 研修施設認定

募集要項

令和8年(2026年)度採用　臨床研修医・研修歯科医募集要項

研修期間	令和8年(2026年)4月1日から令和10年(2028年)3月31日
修了の認定	必要な研修期間を満たし、厚生労働省の「臨床研修の到達目標」を達成すると、当センターの発行の「臨床研修修了証」が交付される。 本人が医籍登録の申請を行い、登録後、厚生労働省から「臨床研修修了登録証」が交付される。
募集定員	内科系プログラム:12名、 外科系プログラム:7名、 救急科プログラム:3名、 総合診療科プログラム:2名、 総合診療・地域医療プログラム:2名、 小児科プログラム:2名、 産婦人科プログラム:2名、 歯科プログラム:2名 ※令和7年度実績　医科30名、歯科2名　※令和7年度実績／変更可能性あり
修了者の進路	医療教育部門のプログラム責任者やアドバイザースタッフと相談の上、 ● 引き続き当院レジデント(専攻医)として専門研修を行う(研修医2年目にレジデント選抜試験あり) ● 全国の臨床研修病院の専門研修プログラムに進む ● 大学の専門研修プログラムまたは大学院医・歯学研究科などで研究医としてのキャリアに進む ● 医系技官など、保健医療行政のキャリアに進む
研修医の 身分・処遇	● 身分:常勤職員 ● 給与:基本給394,000円／月 ● 勤務時間:1週間あたり38.75時間(研修医の平均超過勤務時間:1ヵ月あたり24時間) ● 保険:健康保険、厚生年金、雇用保険の適用あり ● 医師賠償責任保険:個人で加入(紹介制度あり) ● 住居:教育研修棟(個室、冷暖房完備)に入居することを推奨する。月額使用料:共益費、光熱費、諸雑費を含め、2～3万円程度 ● 院内各階および総合医局に研修医用スペースあり(インターネット環境有) ● 健康管理:定期健康診断(年2回) ● 福利厚生施設:院内食堂および喫茶店、売店(院内24時間コンビニ) ● 駐車場:なし(自家用車の持ち込みを禁止する)　※令和7年度実績／変更可能性あり
アルバイト	禁止する

応募資格※1	● 医師国家試験または歯科医師国家試験に合格し医師免許または歯科医師免許を受けた者のうち、原則として2年間継続して当センターで研修できる者 ● 国立国際医療センターのプログラム同士の併願は認めない ● 国立国府台医療センター臨床研修プログラムとの併願は可能とする
応募手続※2	**1. 事前エントリー** ● 当院ホームページの医療教育部門に掲載されているFormsリンクより事前エントリーする ● エントリー後、提出書類を郵送する **2. 提出書類** ● 履歴書（当院指定様式をホームページよりダウンロード、写真貼付） ● 卒業見込証明書 ● 成績証明書 ※提出書類については当院ホームページ掲載の募集要項を必ずご確認ください **3. 送付先** ● 〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1 国立研究開発法人国立国際医療センター医療教育部門教育研修事務係 ※封筒表面に「臨床研修医申込み書類在中」と朱書きし、簡易書留とする **4. 申込み締切** ● 事前エントリー：令和7年7月1日（火）午前8時30分 提出書類：令和7年7月1日（火）午後5時00分必着
選考方法※2	**面接・口述試験** ● 応募者多数の場合、履歴書（エントリーシート）等の提出書類を用いて一次選考を行う ● 一次選考の合否結果については、8月上旬に本人宛に郵送する
選考日時※2	令和7年8月9日（土）～令和7年8月10日（日）のいずれか1日 午前8時30分～午後6時までを予定
場所	国立国際医療センター
採用内定通知	医師または歯科医臨床研修マッチングの結果による
お問い合わせ先	〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1　国立国際医療センター医療教育部門 TEL 03（3202）7181（内線2088）　　Mail　mededu@jihs.go.jp

※1「地域枠学生等」（地方公共団体等との契約により、奨学金等を得る代わりに、初期臨床研修中に一定期間の業務の従事を約束した学生等のこと）の申込み、及び、「地域枠学生等」（同）となった者がそれを辞退しての申込みは一切認めない。
※2 変更となる可能性あり。公式ホームページを随時更新いたしますので、併せてご確認いただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

国立国際医療センター

〒162-8655　東京都新宿区戸山1-21-1

ACCESS

1 都営地下鉄大江戸線 若松河田駅より徒歩5分
2 東京メトロ東西線 早稲田駅より徒歩15分
3 JR大久保駅または新大久保駅より都営バス「新橋駅行き」
(約10分)国立国際医療研究センター前下車
4 JR新宿駅(西口)より都営バス「医療センター経由女子医大行き」
(約20分)国立国際医療研究センター前下車

国立国府台医療センター

〒272-8516　千葉県市川市国府台1-7-1

ACCESS

1 JR市川駅より京成バス「松戸駅行き」(約15分)国府台病院前下車
2 JR松戸駅より京成バス「市川駅行き」(約20分)国府台病院前下車
3 京成電鉄 国府台駅より京成バス「松戸駅行き」(約5分)
国府台病院前下車

JIHS 国立健康危機管理研究機構　NCGM National Center for Global Health and Medicine

国立健康危機管理研究機構
国立国際医療センター

TEL 03-3202-7181　FAX 03-3207-1038
https://www.hosp.jihs.go.jp/index.html

各病院へのアクセスはこちらをご覧ください。
https://www.hosp.jihs.go.jp/access.html